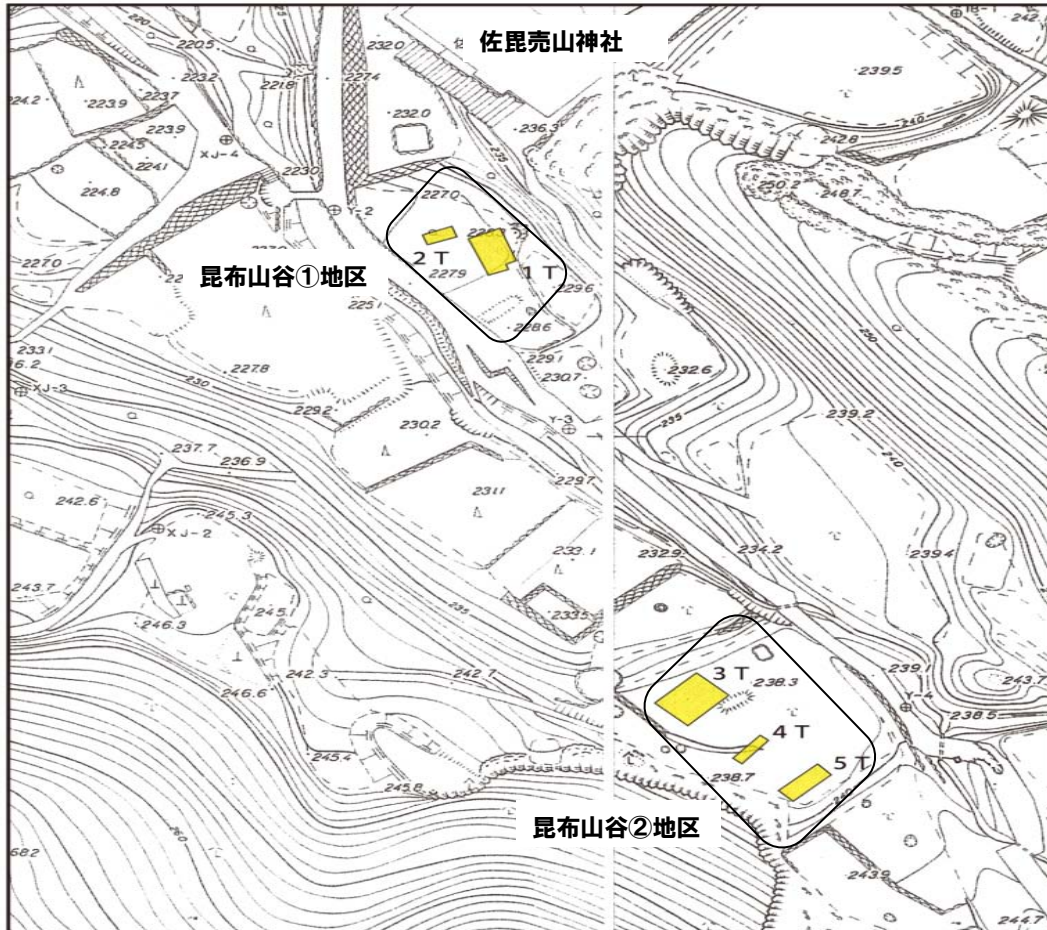


石見銀山遺跡

こぶやまたに 昆布山谷地区 発掘調査速報！！



昆布山谷地区発掘調査 トレンチ配置図 (S=1/500)

昆布山谷地区とは

佐毘売山神社（さひめやまじんじゃ）の西側に広がる谷です。“昆布山谷（こぶやまたに）”の由来は、「石が滑らかで昆布のようなので昆布山谷」と史料に伝えられています。なるほど、太陽があまり当たらないせいか石には苔がついており、歩くとよく滑ります。

この谷の南側の尾根上には数多くの寺跡が存在し、佐毘売山神社をいただく丘陵にはいくつもの坑道が口を開いています。その中でも“新横相間歩（しんよこあいまぶ）”は「御直山（おじきやま：代官所直営の坑道）」として営まれ、銀の産出が減少する頃には銅の鉱石が採掘されました。

また、この谷周辺の出土谷地区や栃畑谷地区では、これまでの発掘調査で戦国時代の遺物や江戸時代後期の銅製錬施設、明治時代の建物の跡などがみつかっています。

発掘調査のねらい [調査期間：平成22年9月29日～11月中旬]

「昆布山」という地名が銀山開発当初の史料に登場するため、早くから人が入り、鉱業活動を行っていたと考えられてきました。しかし、これまでは発掘調査がなされていませんでした。そのため、この昆布山谷地区でどのような鉱業活動が行われ、それがどのように変化していったのか、ということを経典学の側面から明らかにすることが発掘調査のねらいです。

昆布山谷①地区

佐昆売山神社麓の平坦地です。地表には低い石垣・坑口（こうぐち）・岩盤をくりぬいた痕跡が見えていました。坑口は広く開けられていますが、奥を覗くと人が一人歩ける程度の坑道となっており、古い時代の名残を遺しています。また、岩盤をくりぬく行為は他の谷にも見受けられる痕跡です。

これらのことから、この平坦地は少なくとも江戸時代から人が入り活用したと考えられたため、調査を開始しました。

坑道の使われていた時期は・・・

地表に見えている石垣と坑口、それから岩盤を加工した遺構（いこう）の使われた時期や内容を探るために、1トレンチを設けて調査しました。

調査では、石垣が作られるよりも古い時期に、坑口の前は砂で埋まっていたことがわかりました。坑口の周りの地ならしされた面から、江戸時代末～明治時代初頭と考えられる焼き物が見つかり、この坑道（こうどう）は明治時代の始まる頃に役目を終えたと考えられます。

鉱石から金属を取り出した炉跡を発見・・・

2トレンチでは、白っぽい粘土で造られた炉跡（ろあと）が見つかりました。炉跡が見つかったのは、坑口が最後に使われていた地面よりも古い地層です。炉は四角く、内側は丸い椀のような形をしています。更に内側は火を受けて



▲鉱石から金属を取り出した炉の跡

赤く変色していました。埋まっている土の中からは炭や銀を取り出すときにでる金属のカスが見つかりました。

炉跡が作られている地面からは江戸時代終わり頃の焼き物が見つかり、坑道が使われていた最後の時期に、この場所で製錬にかかわる作業が行われていたようです。

昆布山谷②地区について

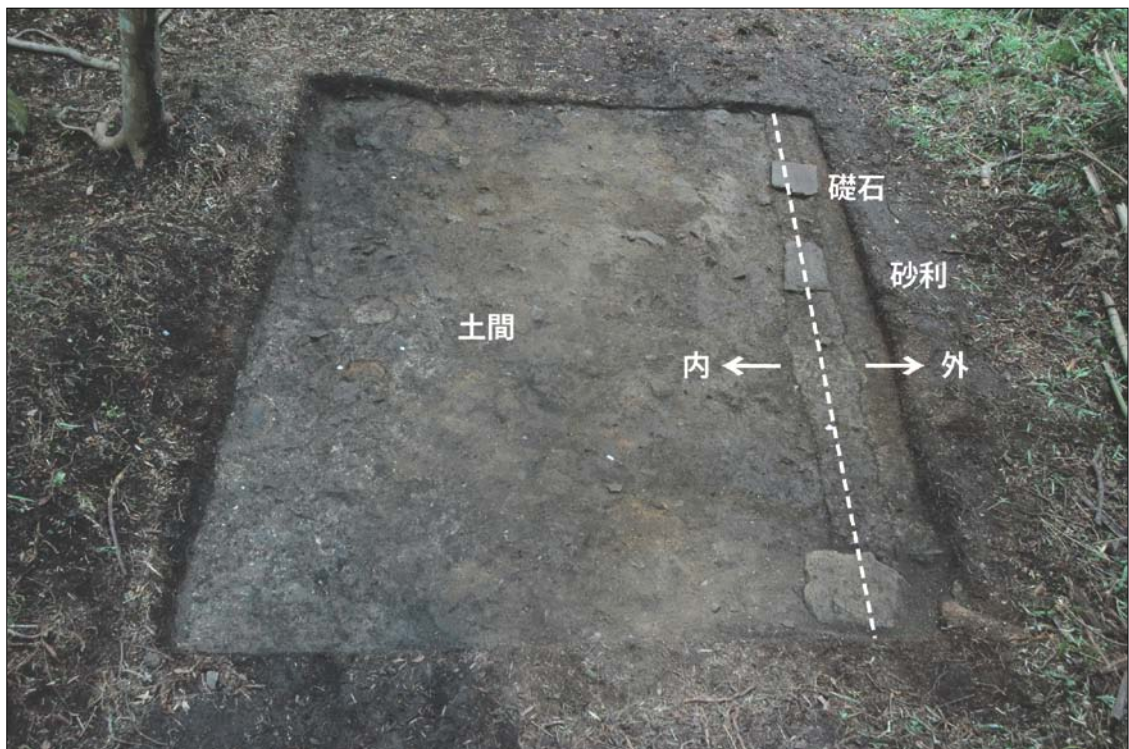
この調査地の周辺には、長楽寺（ちょうらくじ）や妙本寺（みょうほんじ）といった多くの寺の跡があります。また江戸時代の坑道跡である新横相間歩や明治時代の鉱山開発の跡も残っています。このように、たくさんの手がかりがあることや谷の中で一番広い平坦地であること、また、平坦地の中には溝が確認できたことなどから、ここを調査地に選びました。

明治時代の建物跡を発見・・・

調査を始めると、すぐに明治時代の建物跡が見つかりました。建物の基礎となる大きな石（礎石：そせき）が3個確認でき、礎石と礎石の間は土の色がきれいに分かれていました。これは石の上に柱を立て、その間に壁をもうけていた痕ではないかと思われます。このことから、石の列を境にして建物の内と外の区別できました。

屋内と思われる場所では、粘土の層が何層にも敷かれ堅くしめてあり土間（どま）と思われます。屋外には細かい石の粒があることから、砂利敷きになっていたと推測されます。建物の性格まではわかりませんが、比較的大きな建物であったかと思われます。また建物跡の周辺には溝が作られ一ヶ所に水を集めて利用していたと思われる施設も見つかっています。

明治時代の建物の下には、江戸時代の建物跡も眠っていました。江戸時代の土間から銀の鉱石を細かく砕くための石「かなめ石」や、近くには礎石と思われる石もありました。



▲明治時代の建物跡

このように、昆布山谷地区には江戸時代から明治時代にかけての遺構が良い状態で残っていることがわかります。

石見銀山遺跡では、平成8年から継続して発掘調査を行っています。現在調査をしているこの昆布山谷地区は世界遺産に登録された資産の一つである「銀山柵内（ぎんざんさくのうち：江戸時代の銀山町）」の範囲に位置しています。

今後の発掘調査で、昆布山谷地区に人が往来していた長い時間の様子を探り、石見銀山遺跡の歴史を少しずつ明らかにしていきたいと思えます。

☆発掘調査の公開について

平成22年度の昆布山谷地区の発掘調査は、公開で行っています。現地付近を通りがかった際には、お気軽にお立ち寄りください。

作業時間▼

月～金曜日 9:00～16:30

(昼休み 12:00～13:00)

※昆布山谷と並行して、石銀地区の調査も行われています。作業の内容によっては石銀地区へ行っていることもありますので、ご了承ください。



▲発掘作業の風景



執筆・編集：野島智実・尾村勝
(大田市教育委員会 石見銀山課)

発行：2010年11月1日

問い合わせ：石見銀山世界遺産センター
[電話]0854-89-0183
[FAX]0854-89-0089
〒694-0305
大田市大森町イ1597-3

※本紙の転用・転載はご遠慮ください。

☆石見銀山遺跡は「ユネスコ (UNESCO)」の世界遺産に登録されています。

ユネスコは人類の平和と人権の尊重をめざしています。